

IV 教育施策の具体的実施状況

7 豊かな感性を育む文化の継承と発展 [文化の継承・発展]

(1) 文化財の保護と活用

(2) 文化施設の活用と文化芸術活動の推進

担当課：文化財課

7 豊かな感性を育む文化の継承と発展

(1) 基本方向

沖縄県の地理的位置や独特な歴史の過程を経て醸成された文化財は、県民共有の財産であり、その価値を再認識して、保存・継承・発展させることは、県民の責務であることから県民や児童生徒の文化財や文化芸術に対する意識を高め、心豊かな生活が営めるよう特色ある文化の充実を図ることが必要である。

文化財に係る各種の保存整備事業等を展開することにより、県民が等しく沖縄の地域文化に触れ、文化財への関心や意識を高め、その保護と活用を図ることができ、地域文化の創造活動を促進する。

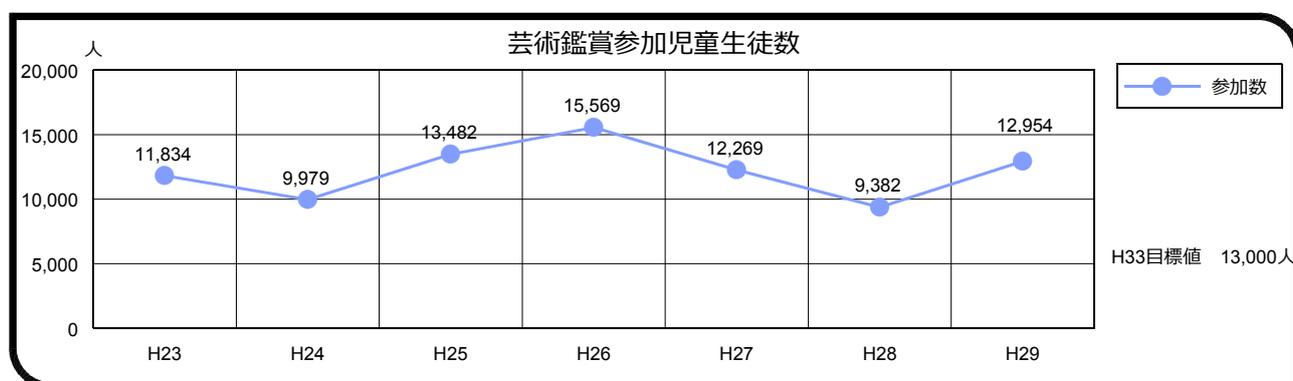
このため、有形・無形・民俗・記念物等の文化財調査や保存修理を行うとともに、文化財への関心を高めるために拠点となる文化施設の活用を図る。また、「しまくとぅば」や「沖縄空手」等、生涯学習の観点に立って、国際化の時代に対応した幼児児童生徒の文化芸術への意識を育み、文化の創造に寄与する取組を推進する。

(2) 指標

「矢印」前年度からの傾向 「/」事業設定なし 「—」数値未発表・未確定 「頁」関連事業案内 「◎」目標値達成指標

成果指標：該当頁	単位	H25	H26	H27	H28	H29	目標値H33
指定文化財の件数（累計）：P168	件	↗ 1,372	↗ 1,382	↗ 1,393	↗ 1,402	↗ 1,409	1,450
史跡等への訪問者数：P168	人	↗ 3,495,428	↗ 3,607,536	↗ 3,812,422	↗ 3,877,000	↗ 3,932,000	3,900,000 ◎
史料編集事業刊行物（累計）：P172	冊	↗ 198	↗ 207	↗ 215	↗ 226	↗ 237	271
文化庁等提供事業芸術鑑賞児童生徒数：P174	人	↗ 13,482	↗ 15,569	↘ 12,269	↘ 9,382	↗ 12,954	13,000

活動指標：該当頁	単位	H25	H26	H27	H28	H29	目標値H33
県及び市町村の文化財保護審議会の開催回数：P168	回	↗ 70	↘ 63	↘ 55	→ 55	↗ 62	63
史跡等の整備件数：P168	件	↗ 17	→ 17	↘ 16	→ 16	↘ 14	20
無形文化財伝承者養成・技術錬磨事業参加者数：P168	人	↘ 1,284	↘ 1,217	↗ 1,390	↗ 1,409	↗ 1,411	1,400 ◎
文化庁等提供事業芸術鑑賞公演件数：P174	件	↗ 79	↗ 95	→ 72	→ 72	↗ 99	73 ◎



■新たに国指定となった文化財等

【重要無形文化財（芸能の部）】 組踊音楽太鼓 保持者の指定

（平成29年10月2日付け文部科学省告示第128号）

組踊くみおどりは、琉球王朝が中国使節を歓待するため1719年に初演した音楽劇で、音楽と演技、舞踊、台詞せりふによって展開する。その組踊音楽は、歌三線うたさんしん、箏こと、太鼓たいこ、笛ふえ、胡弓こきゅうで構成される。「組踊音楽太鼓」は平成15年7月10日に重要無形文化財に指定されたが、平成18年に保持者の逝去により指定が解除されており、今回、改めて指定するとともに、保持者を認定するものである。

今回指定された保持者(比嘉 聡)は、昭和27年に沖縄に生まれ、昭和47年、太鼓を島袋光史（重要無形文化財「組踊音楽太鼓」（各個認定）保持者 ※平成18年物故）に、歌三線を棚原忠徳に師事して本格的な修行を始め、同54年、野村流組踊地謡研究会主催第1回「組踊を聞く」における「万歳敵討」で組踊音楽太鼓の初舞台を務めた。昭和60年には光史流太鼓保存会比嘉聡練場を開き後継者の育成を開始する。更に師の薫陶のもと修練を積み、同63年、太鼓の師範免許を取得した。同人は、師の没後も研鑽に励み、組踊音楽太鼓の演奏技法を高度に体得するに至り、平成27年に、重要無形文化財「組踊」（総合認定）の保持者に認定された。

曲趣を的確に捉え、端正で抑制のきいた同人の演奏は、組踊を豊かに表現するものとして高く評価されている。加えて、島袋光史から学んだ組踊全般に及ぶ知識と、その上に確立された組踊に対する深い理解、見識は、斯界から厚い信頼が寄せられ、優れた舞台成果を世に示している。

【重要無形文化財（芸能の部）】 「琉球舞踊」保持者の追加認定

「琉球舞踊」は、我が国の芸術上特に価値が高く、芸能史上特に重要な地位を占めるものであることから、沖縄県教育委員会は、「古典舞踊」を昭和47年12月28日に沖縄県指定無形文化財「沖縄伝統舞踊」として指定しており、平成21年9月2日には、「古典舞踊」に「雑踊」を加え、国の要無形文化財「琉球舞踊」に指定された。

現在、国指定重要無形文化財「琉球舞踊」の保持者は、舞踊12名、歌三線11名、琴5名、笛2名、太鼓2名が認定されており、今回、27名が新たに追加認定されたことにより、保持者は、舞踊25名、歌三線19名、琴10名、笛2名、太鼓3名の合計59名となった。

今回追加認定された保持者は以下のとおりである。

【舞踊】13名

渡久地 美代子、宮城 トヨ、又吉 敏子、安次富 紀子、海勢頭 明、金城 光子、比嘉 美好、新崎 弘子、島袋 君子、宇座 悦子、石川 静枝、比嘉 涼子、宮平 則子

【歌三線】8名

勝連 繁男、中村 一雄、銘苅 盛隆、城間 盛久、新城 治、照喜名 進、島袋 功、仲嶺 伸吾

【箏】5名

山内 照子、名嘉 ヨシ子、赤嶺 和子、上地 律子、安慶名 久美子

【太鼓】1名

比嘉 聡

【登録記念物（遺跡関係）】 沖縄県鉄道与那原駅跡（沖縄県与那原町）

（平成29年10月13日付け文部科学省告示第146号）

沖縄県鉄道与那原駅跡は、那覇市から東へ約9km、沖縄本島南部の東海岸に位置する与那原町に所在する国の登録記念物である。

沖縄県鉄道（沖縄県営鉄道）とは、大正3年（1914）から昭和20年（1945）まで、沖縄県が本島中南部において運営した鉄道で、通常の軌間（左右レールの距離）より狭い762mm（2フィート6インチ）の軌間を採用した軽便鉄道である。沖縄では「ケービン」と呼ばれ親しまれた。

そのルートは与那原線、嘉手納線、糸満線の三路線からなり、そのうち那覇と与那原間9.4kmを結ぶ与那原線は、三路線のなかで最も早い大正3年（1914）に開業し、交通の要衝として重要な役割を担った。

当初の駅舎は木造平屋建てであったが、昭和6年（1931）に県営鉄道では唯一の鉄筋コンクリート造に建て替えられた。駅舎は昭和20年（1945）の沖縄戦で大きく被害を受けたが、柱などの主要な躯体が残されたことから、戦後も改修により与那原町役場等として利用された。

その後、平成27年（2015）には古写真や聞き取り等の情報を基に、与那原町立軽便与那原駅舎展示資料館として駅舎が復元されたが、その際に昭和6年（1931）の立て替え当時から残る駅舎の柱について、保存と公開をはかる措置が取られた。

また、近年の調査成果として、駅舎跡付近においてレールやレールを枕木に固定する犬釘等の線路遺構や遺物もみつかり、近代沖縄における鉄道を中心とした交通の歴史を知る上で意義深い発見となっている。



沖縄県鉄道与那原駅跡資料館



レール出土状況

(3) 各事業の点検・評価

実施期	事業名	内 容	Plan (計画)	Do (実施)
① 文化財の保護と活用	ア 史跡等保存整備活用等の推進 【担当課】文化財課 【21世紀ビジョン】1-(4)-ア 【決算額】584,614千円 【進捗状況】順調	<ul style="list-style-type: none"> ■ 国・県指定の史跡・名勝の保存修理や整備・活用等の実施 ■ 史跡指定地内の公有化を図り、適切な保護・管理を実施 ■ 保存活用計画策定事業の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 国・県指定の史跡・名勝の保存整備事業として国・県の補助を受け、城跡の石垣や石畳道の修復工事、芝張り等の植栽工事、案内板等の設置工事等を実施する。 ■ 9件の史跡等の公有化事業を実施する。 ■ 史跡等の保存活用計画策定を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 国・県指定の史跡・名勝合わせて15件の保存整備事業を国・県の補助を受け、城跡の石垣や石畳道の修復工事、芝張り等の植栽工事、案内板等の設置工事等を実施した。 ■ 8件の史跡等の公有化事業を実施した。 ■ 3件の保存活用計画策定事業を実施した。
	イ 有形、無形、民俗文化財、天然記念物等の指定・保存・活用事業 【担当課】文化財課 【21世紀ビジョン】1-(4)-イ 【決算額】45,047千円 【進捗状況】順調	<ul style="list-style-type: none"> ■ 県内に所在する各文化財の調査、指定の推進 ■ 国指定、県指定文化財等の適切な保存・管理及び整備 ■ 文化財に関する情報提供や公開活用及び伝承者養成事業の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 文化財調査事業の継続推進 ■ 専門家、関係市町村等と連携した文化財の新規指定の取組 ■ 指定文化財の現況把握、保存と活用の取組強化 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 県内各地での調査実施 (1)天然記念物調査 トゲネズミ (29-31年度) (2)民俗文化財調査 沖縄の行事食 (28-30年度) ■ 指定文化財の管理、修理 (1)除草・清掃の実施 国指定5件、県指定6件 ■ 無形文化財伝承者養成、技術錬磨事業の実施 芸能関係8件、工芸関係12件 ■ 九州民俗芸能大会(熊本大会)への派遣 ■ 文化財指定件数の累計 1,409件
	ウ 戦災文化財の復元整備 【担当課】文化財課 【21世紀ビジョン】1-(4)-ア 【決算額】10,173千円 【進捗状況】順調	<ul style="list-style-type: none"> ■ 円覚寺跡保存修理事業の実施(石積み、伽藍等の保存修理および三門等の復元) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 円覚寺跡三門復元に係る建築部会を2回開催する。 ■ 円覚寺跡三門復元に向けた実施設計を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 円覚寺跡三門復元に係る建築部会を9月と平成30年2月に2回開催した。 ■ 遺構保護の埋め戻しを実施した。

Check (検証)	Action (改善)
<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 15件の国・県指定史跡等において、文化庁及び関係市町村教育委員会と密に調整し、発掘調査成果を基に城壁等の保存修理事業を実施した。その結果、歴史的空間の構築に寄与するとともに公開活用に供するなど、県民の文化力向上に資した。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 整備事業において、入札不調による不用があった。 ■ 買上事業において、当初の見積もり額との相違や、所有者との調整不調による買上ができなかったことにより多額の不用が生じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 平成30年度は市町村事業における各種委員会等の開催回数を増やし、事業内容の把握と事業実施に向けての内容確認を密に実施する。委員会以外にも現地へ出向き、事業の進捗について確認を行う。 ■ 入札の時期をできるだけ平成30年内に行うよう市町村を指導する。 ■ 買上事業において、所有者との交渉を早期に進めるよう指導し、計画に変更があった場合は早めに文化庁と調整する。
<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 平成29年10月に重要無形文化財（芸能）の組踊音楽太鼓が新たに指定された。 ■ トゲネズミ生息実態調査を実施した。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 文化財指定を含め、適切な管理実施上の基礎資料が不備な文化財が存在している。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 文化財調査事業の継続推進を図る。 ■ 専門家、関係市町村等と連携した文化財の新規指定の取組を図る。 ■ 指定文化財の現況把握、適切な保存と管理、活用へ向けた取組の強化を図る。
<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 平成28・29年度において、文化庁と復元に向けた調整を行った結果、「史跡等における歴史的建造物の取扱いに関する専門委員会」において、三門の復元について承認が得られ、禅宗様建築物の詳細について検討するため、建築部会を2回開催した。 ■ 現在は実施設計を行っている最中である。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 往時（おうじ）の姿に復元することから、史跡内に設置された祠（ほこら）等の現代構築物を撤去する必要がある。 ■ 円覚寺跡は首里城公園内にあり、史跡首里城跡や園比屋武御嶽石門などの世界遺産に隣接している。県内でも文化財が集中している地域であることから、今後はより県民の理解と協力を得ながら復元整備を目指していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 史跡内に設置された祠等の現代構築物の撤去等を含め、円覚寺跡整備委員会において復元に関する留意点及び改善点を中心に検討し、専門的な知見を基本として正確な復元整備を目指す。

実施期	事業名	内 容	Plan (計画)	Do (実施)
① 文化財の保護と活用	工 基地内文化財発掘調査事業 【担当課】文化財課 【21世紀ビジョン】1-(4)-ア 【決算額】54,647千円 【進捗状況】大幅遅れ	<ul style="list-style-type: none"> ■ S A C O(沖縄に関する特別行動委員会)で返還が合意された米軍基地等に所在する埋蔵文化財の試掘調査及び範囲確認調査等の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 西普天間住宅地区(宜野湾市)の試掘・確認調査の成果をまとめた報告書を刊行する。 ■ 普天間飛行場内(宜野湾市)の文化財確認調査を行う。 ■ キャンプ・シュワブ内(名護市)における遺跡の有無を確認する。 ■ 嘉手納飛行場より以南の統合計画に伴い、計画地内に所在する埋蔵文化財の取り扱いについて、所在市町村と調整を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 西普天間住宅地区の成果報告書を刊行した。 ■ 普天間飛行場内にて、平成30年度調査予定地の測量・磁気探査を行った。 ■ キャンプ・シュワブ内にて、音波探査や潜水目視調査を実施し、遺跡の有無を確認した。
	オ 県立埋蔵文化財センターの体制の充実と事業の推進 【担当課】文化財課 【21世紀ビジョン】1-(4)-ア 【決算額】1,049千円 【進捗状況】順調	<ul style="list-style-type: none"> ■ 埋蔵文化財の適切な保存活用及び県民の埋蔵文化財保護に対する意識の高揚 ■ 諸開発に伴う埋蔵文化財の発掘調査の実施と適切な保護を図るための体制の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 調査・研究成果を現地説明会や出前授業、移動展により県民・児童生徒に広く発信することにより、地域の歴史文化について理解するとともに、埋蔵文化財保護に対する意識の高揚を図る。 ■ 諸開発計画と連動しながら埋蔵文化財の調査を行い、適切に保護する。 ■ 諸開発計画や米軍基地返還に伴う跡地利用計画を円滑に進めるため、調査体制を充実・強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 現地説明会や出前授業、移動展を開催し、調査・研究成果を多くの県民・児童生徒に公開した。 ■ キャンプシュワブでは、名護市教育委員会の発掘調査に職員を派遣して支援した。首里高校では、校舎改築と調査のスケジュールを調整しながら発掘調査を進めた。 ■ 専門員の能力向上のため発掘調査に係る専門的研修を受講した。
	カ 在外沖縄関連文化財調査 【担当課】文化財課 【21世紀ビジョン】1-(4)-ア 【決算額】294千円 【進捗状況】順調	<ul style="list-style-type: none"> ■ 国外や県外に所在する沖縄関連文化財の所在や保存状況、価値などの調査の実施、基礎資料作成 ■ 文化財としての価値や現状のデータ収集による沖縄の美術工芸の体系化 ■ 中国、台湾、韓国ならびに県外での沖縄関連文化財調査の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 戦前に今帰仁村等で収集され現在台湾大学に保管されている63体の人骨資料の現状確認と移管に向けての交渉を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 台湾大学で当該人骨資料を管理するセクションの確認と、その管理責任者との接触を図った。

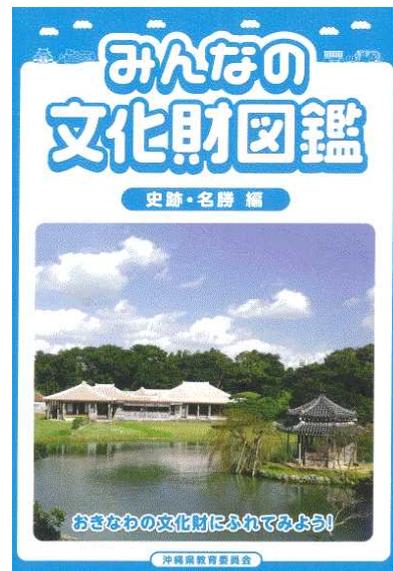
Check (検証)	Action (改善)
<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 返還された西普天間住宅地区の調査成果報告書を刊行し、跡地利用に資することができた。 ■ 西普天間住宅地区の調査成果報告書を刊行したことにより、跡地利用計画策定部局との調整及び、埋蔵文化財等の適切な保護策を講じる際の基礎資料が得られた。本成果は、基地返還に伴う跡地利用計画の円滑化につながる。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 普天間飛行場内文化財調査のみならず、嘉手納飛行場より以南の統合計画に伴う埋蔵文化財調査の迅速化を図る必要がある。 ■ 市町村からの支援要請に対応できる体制づくりを行う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 調査体制強化の必要性については、文化庁の指導・協力の下、国と県が連携して、市町村に対し継続して指導・助言を行うとともに、県も体制強化できるよう努める。 ■ 基地を抱える市町村や県の跡地対策部局との連携を強化し、情報交換を兼ねた調整を密に行う。また、基地跡地利用を円滑に進めるため、知事部局ほか関係部局との連携を密にし、情報の共有に努める。 ■ 返還前から文化財調査に係る基地内立入許可の手続きについて沖縄防衛局と調整を行い、埋蔵文化財調査への影響の軽減を図る。
<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 現地説明会や出前授業、移動展を開催し、多くの県民・児童生徒に調査成果や地域の歴史文化を発信することで、埋蔵文化財保護に対する理解を深めることができた。 ■ 市町村で対応できない業務について、支援等を行うことにより、県内の埋蔵文化財を適切に保護することができた。また、重要遺跡を保護しながら調整、調査を進めることにより、後世に遺跡を残すことができた。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 県民・児童生徒に対する埋蔵文化財情報の発信力を強化する必要がある。 ■ 今後予定されている米軍基地返還や諸開発計画に適切に対応するため、専門職員の能力をより一層向上する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域の埋蔵文化財を広く周知するため、多くの県民・児童生徒が興味を持ち、理解しやすいイベントを開催する。 ■ 普及体制を強化するとともに、市町村とも連携してイベントを企画開催する。 ■ 利用者を増やすため、より多くの学校や各種施設・団体に利用促進を呼びかけるとともに、マスコミなどを活用して効果的に広報を行う。 ■ 米軍基地返還に伴う跡地利用計画や各種開発事業に伴う発掘調査に対応するため、市町村等とも連携しつつ、計画的に調査体制を充実・強化し、埋蔵文化財を適切に調査・保存するとともに専門員の研修を促進し、諸開発計画の円滑化に努める。
<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 台湾大学が管理する63体の当該人骨資料についての保管状況について確認することができた。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 当該人骨資料を沖縄へ移管するためには、引き続き管理セクションとの接触を継続する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 今後も台湾大学関係者との接触を継続していく。

実施期	事業名	内 容	Plan (計画)	Do (実施)
① 文化財の保護と活用	キ 文化財保護思想普及事業 【担当課】文化財課 【21世紀ビジョン】- 【決算額】136千円 【進捗状況】順調	■文化財保護週間及び保護思想の周知 ■文化財図画作品募集事業の実施 ■文化財情報収集・提供事業の実施	■「わたしたちの文化財」図画作品募集 ■文化財愛護展示会 ■文化財保護強調週間ポスター作成	■「私たちの文化財」図画作品募集において小中高61校より330点の応募があり、入賞作品75点を選出した。 ■文化財保護強調週間にあわせ、入賞した児童生徒の表彰式、及び県民ホールで入賞作品を展示した。 ■平成28年度「私たちの文化財」図画作品最優秀賞受賞作品2点をポスターに作成し、県内小中学校及び社会教育施設等に配布した。
	ク 「琉球王国外交文書等の編集刊行及びデジタル化事業」及び「史料編集事業」 【担当課】文化財課 【21世紀ビジョン】1-(4)-ア 【決算額】86,618千円 【進捗状況】順調	■沖縄と東南アジア、中国との外交の歴史を示す第一級史料である歴代宝案の編集・刊行 ■先史から現代までの沖縄の歴史を「新・沖縄県史」として編集・刊行	■『歴代宝案訳注本第14冊』、『歴代宝案参考資料18』、及び『中琉歴史関係檔案 道光朝』3冊、『歴代宝案の栞』の刊行、交流関係史料の調査と史料のデジタル化・テキスト化を実施する。 ■『沖縄県史 研究叢書18 沖縄の民俗資料』、『同19 植物標本より得られた近代沖縄の新聞Ⅱ』、『沖縄史料編集紀要』『沖縄県史だより』を刊行する。『図説編 前近代』は編集協力会議を開催し、内容検討を進める。各論編 現代・民俗は部会において内容構成案を検討する。中国第一歴史檔案館研究者の招聘・報告を行う。	■『歴代宝案 訳注本第14冊』『歴代宝案参考資料18』『同19』『中琉歴史関係檔案 道光朝(九)』『同(十)』『同(十一)』、『歴代宝案の栞』を刊行するとともに、琉球王国の外交・交流関係資料のデジタル化を実施した。 ■『沖縄県史 研究叢書18 沖縄の民俗資料』、『同19 植物標本より得られた近代沖縄の新聞Ⅱ』、『沖縄史料編集紀要』『沖縄県史だより』を刊行した。編集委員会・部会等は計19回、編集協力会議は計33回を開催し、各刊行物の内容検討を進めた。中国第一歴史檔案館の招聘事業も実施した。

Check (検証)	Action (改善)
<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ■身近な文化財の図画制作を通して、文化財愛護思想の普及を図ることができた。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ■図画作品の応募総数が減少傾向にある。 平成26年度 346点 平成27年度 354点 平成28年度 332点 平成29年度 330点 	<ul style="list-style-type: none"> ■各種研修会や校長会、教頭会等において、「私たちの文化財」図画作品募集についての取組の周知を図る。
<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ■琉球王国外交関係資料として7冊を刊行、新沖縄県史関係で4冊を刊行し、図書館・大学等の関係機関へ提供することができた。 ■外交資料のデジタル化・テキスト化は琉球関係檔案史料1,231枚のデジタル化を行い、今後の公開に向けデータの蓄積ができた。中国第一歴史檔案館の招聘事業により学術交流を深めることができた。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ベッテルハイム日記の翻訳について、進捗の改善を図るため、編集協力会議の持ち方の検討が必要である。 ■平成30年度刊行予定の『図説編 前近代』は郷土の歴史・文化について、絵地図などを多様している。広く親しめる内容であることから継続して、広報・普及に力をいれる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ベッテルハイム日記の編集協力会議について、効率よく検討を進めるために、事前の協議事項の精選、事務局案の作成を行う等、進捗の改善を図る。 ■『図説編 前近代』について学校での活用が図られるよう配布部数を増やす。また、新聞への記事掲載等を通して、県民への普及を図る。

○「みんなの文化財図鑑」(史跡・名勝編)

沖縄の歴史・文化の普及、啓発を行うために「みんなの文化財図鑑」(史跡・名勝編)を刊行



課題	事業名	内容	Plan (計画)	Do (実施)
② 文化施設 の活用 と文化 芸術活 動の推 進	<p>ア 県立埋蔵文化財センターの活用</p> <p>【担当課】 文化財課</p> <p>【21世紀ビジョン】 —</p> <p>【決算額】 6,149千円</p> <p>【進捗状況】 順調</p>	<p>■文化講座、体験学習等の普及及び啓発の推進及び出土品の保管や活用等の充実</p>	<p>■調査・研究の成果を文化講座や企画展により公開するとともに、団体見学・就業体験を積極的に受け入れるほか、体験学習等を行い、広く埋蔵文化財保護に対する意識の高揚を図る。</p> <p>■資料整理を終えた出土品を収蔵庫で適切に保管し、埋蔵文化財センターの常設展及び企画展で公開する。また、沖縄県立博物館・美術館をはじめとする文化施設への貸出しにより広く公開する。</p> <p>■研究者には、資料利用申請により出土品の公開を行い、考古学研究に資する。</p>	<p>■文化講座・シンポジウムや企画展・移動展において調査・研究の成果を公開した。また、団体見学、就業体験、体験学習により、多くの県民・児童生徒に調査成果や地域の歴史文化について発信した。</p> <p>■出土品を収蔵庫に収め適切に保管するとともに、その一部を埋蔵文化財センターの常設展および企画展で公開した。また、各文化施設への貸出しにより広く公開した</p> <p>■研究者に出土品の公開を行い、論文等作成に関する情報を提供した。また学校に、授業で使用する資料や道具を提供した。</p>
	<p>イ 組踊等教育普及事業</p> <p>【担当課】 文化財課</p> <p>【21世紀ビジョン】 1-(4)-ア</p> <p>【決算額】 4,047千円</p> <p>【進捗状況】 順調</p>	<p>■組踊等沖縄伝統芸能の保存と継承、普及啓発に向けた鑑賞機会の提供</p> <p>(1)組踊特別鑑賞会(県外普及公演)</p> <p>(2)児童生徒の組踊鑑賞会</p>	<p>■組踊、琉球舞踊等の本県独自の無形文化財について、鑑賞機会の少ない県内児童生徒への公演や県外の公演を実施する。</p>	<p>■県外公演(組踊特別鑑賞会) 静岡県菊川市、奈良県三郷町、宮城県加美町、岡山県矢掛町、石川県小松市、千葉県旭市で開催し、3,248人の入場者実績</p> <p>■県内公演 宜野湾市、南城市、西原町で開催し、小中高校生2,049人が鑑賞した。</p>
	<p>ウ 文化振興事業</p> <p>【担当課】 文化財課</p> <p>【21世紀ビジョン】 1-(4)-イ</p> <p>【決算額】 757千円</p> <p>【進捗状況】 順調</p>	<p>■文化庁等提供事業による公演の実施(合唱、演劇、バレエ、伝統芸能等)</p> <p>■沖縄県こども青少年芸術劇場の実施</p>	<p>■文化庁や県、市町村教育委員会及び学校等との共催により、鑑賞機会提供事業を実施</p> <p>■離島・へき地での沖縄県芸術鑑賞提供事業において、竹富町内の2箇所(西表島、黒島)での公演を実施</p> <p>■内容：ミュージカル、オーケストラ、児童劇、音楽などの鑑賞・ワークショップ・共演</p>	<p>■文化庁、県、市町村教育委員会及び学校等との共催により鑑賞機会提供事業を実施した。</p> <p>■離島・へき地の児童生徒に芸術鑑賞機会を提供するため、竹富町で3公演を実施した。</p> <p>■内容：ミュージカル、オーケストラ、児童劇、音楽などの鑑賞・ワークショップ・共演</p>

Check (検証)	Action (改善)
<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ■文化講座や体験学習の実施、団体見学、就業体験の受け入れにより、多くの県民・児童生徒に調査成果や地域の歴史文化を発信することにより、地域に存在する埋蔵文化財について理解を深めることができた。 ■資料貸出しによる県内外への資料展示・公開により、本県の歴史文化について広く発信した。 ■研究者に広く公開することにより、各種研究や論文作成、学会発表等に用いられた。 ■様々な取り組みにより平成12年の開所以来、来所者数が最多となった。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ■より多くの県民・児童生徒に埋蔵文化財に関する情報を発信する体制が弱い。 ■常設展示室の内容が平成12年の開所以来ほとんど変更がない。 ■資料利用に際し研究者が閲覧するスペースが不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ■地域の埋蔵文化財を広く周知する目的で多くの県民・児童生徒が興味を持ち、理解しやすい内容で各種イベントを企画開催する。 ■利用者を増やすため、より多くの学校や各種施設・団体に利用促進の呼びかけを行うとともに、マスコミ等を活用して効果的な広報を行う。 ■常設展示室の段階的なりニューアルとして、最新の研究成果をもとに白保4号の復顔像や全身骨格を製作し、展示公開する。 ■研究者の閲覧スペースを臨時的に収蔵庫内の一角に設ける。
<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ■県外公演では、6県を対象に組踊特別鑑賞会を実施し、平成28年度に引き続き3千人規模の入場者実績を維持することが出来た。 ■県内公演では、平成28年度(1,761人)に対して、平成29年度(2,049人)と対前年度比で288人の増加があった。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ■県外公演では、平成28年度(3,415人)に対して、平成29年度(3,248人)と対前年度比で167人減少している。 <p>開催県によって開催する会場の規模も異なるが、できる限り多くの方に公演を鑑賞してもらえるように会場確保や広報の取組を行う必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■事業の周知 <ol style="list-style-type: none"> (1)広報方法の強化を検討する。 (2)開催希望校との事前調整を行い、より効率的な事業の推進を図る。
<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ■行政説明会や各教育委員会との連携を図り、本事業を周知した。 <p>鑑賞児童生徒数は前年度比で2,395人増えた11,777人となり、順調である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■鑑賞するだけでなく、ワークショップを取り入れる学校が増えており、芸術文化に対する関心を高めることができた。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ■離島やへき地の子ども達が優れた文化芸術を鑑賞できる機会がまだ十分ではない。 ■各担当者が異動等で代わると本事業が周知されない、または対応が遅れる等の可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ■行政説明会や教頭会等で事業の周知を継続し、併せて各学校へ周知や応募の呼びかけを実施する。 ■応募数の少ない市町村には応募を再度呼びかける。 ■文化庁主催の特定非営利活動法人等団体による委託業務募集を県内の特定非営利活動法人等団体に呼びかけ、新たな学校受け入れ枠の増を模索する。

課題	事業名	内容	Plan (計画)	Do (実施)
② 文化施設 の活用 と文化 芸術活 動の推 進	工 青少年文化活動事業 【担当課】 文化財課 【21世紀ビジョン】 1-(4)-イ 【決算額】 11,463千円 【進捗状況】 順調	<ul style="list-style-type: none"> ■ 県高等学校文化連盟、県中学校文化連盟の支援 ■ 各文化祭等への生徒派遣及び大会運営の支援 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 県中学校総合文化連盟への補助を通して、離島の生徒への大会派遣費の負担軽減を図る。 ■ 県高等学校文化連盟への補助を通して、高校生の文化活動を支援し、高文連主催の総合文化祭を始めとした各種大会など発表の場を確保するとともに各分野の技術向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 文化活動の発表の場を確保するとともに各分野の技術向上を図るため、県中学校文化連盟及び県高等学校文化連盟の強化費、大会運営費、派遣費に関する補助を行った。 ■ 全国中学校総合文化祭及び高等学校総合文化祭へ387名の生徒を派遣した。
	オ 沖縄県高校生芸術文化国際交流プログラム 【担当課】 文化財課 【21世紀ビジョン】 1-(4)-I 【決算額】 29,647千円 【進捗状況】 順調	<ul style="list-style-type: none"> ■ 諸外国の高校生との相互文化交流 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「書道」分野で活躍する高校生20名、「美術・工芸」分野で活躍する高校生20名の計40名を台湾へ派遣し文化交流を実施する。 ■ 「音楽」分野で活躍する高校生18名をドイツへ派遣し文化交流を実施する。 ■ 「郷土芸能」分野で活躍する高校生16名をハワイへ派遣し文化交流を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「書道」、「美術・工芸」部門は、台湾で台北市立第一女子高級中学、師範大附属高級中学と交流を行った。また、書道や水墨画の個別指導を受けた。 ■ 「音楽」部門は、ドイツでフンボルト・ギムナジウム・ケルン校と交流を行った。また、ケルン交響楽団の演奏家から直接、レッスンを受けた。 ■ 「郷土芸能」部門は、ハワイでカメハメハスクール、ハワイ大学マノア校と交流を行った。

Check (検証)	Action (改善)
<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ■各文化祭への参加者数については、少子化による生徒数の減及び会場のキャパシティの問題もある中で、各文化連盟の意欲的な取組により参加者数は微減にとどまり、進捗状況は順調となっている。 ■高等学校文化連盟が行う県外大会への派遣に関する事業や離島生徒の大会派遣費の補助についても継続的な支援を行ったことで県外派遣者計画値を達成でき順調である。 ■文化活動の発表の場を確保することで、生徒の意欲向上や各分野の技術向上に繋がった。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ■中学校文化連盟及び高等学校文化連盟において、強化が必要な分野については、今後も引き続き、支援体制の強化や発表の場を設けることで、活動生徒数の拡大及び技術の向上を図る。 ■各文化祭等の注目度が上がる工夫をし、参加した生徒のモチベーションを上げ、活動の活発化につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■将棋や囲碁などの県中学校文化連盟の部門にない活動について、中学校文化連盟と連携して、活動状況等の掌握に努める。
<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ■高校生を74人3カ国に派遣した。 ■それぞれの国での交流で芸術文化に対する理解がより深まった。 ■外国との文化の違いやコミュニケーションをとるために語学の重要性に気づくことができ、学習意欲が高まった。 ■実際に見聞きすることで国際的な視点から考えるようになり、研修の効果が高まった。 ■合同成果報告会で他国で研修した生徒の研修成果を共有することで、よりいっそう海外に対し興味関心を持たせることができた。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ■本研修をより深めるために、事前研修の内容について更に吟味する必要がある。 ■交流の際に必要な語学力が十分でない。 ■本研修の成果を高めるために、派遣生徒の意識高揚に努める。 ■交通状況等により本研修に影響が出ないようにするため、ゆとりをもった日程を組み、研修時間をしっかり確保する。 ■事前に受け入れ現地高校等と日程調整を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ■高文連、専門部、旅行社と密に連携を図る。 ■語学研修の内容の充実に努める。 ■各分野におけるより効果的で治安のよい派遣先を検討する。 ■事前研修にファシリテーターを導入し、派遣生徒の目的意識を高めより効果的な研修を実施する。 ■交通状況や生徒の体調に配慮し、ゆとりある日程を検討する。

■ 沖縄県高校生国際文化交流事業における交流の様子

1 台湾派遣（美術・工芸、書道）



台湾芸術大学での水墨画研修



師範大附属での書道交流

2 ドイツ派遣（音楽）



実技レッスン

3 アメリカ（ハワイ）派遣（郷土芸能）



カメハメ八高校にて 伝統芸能交流会

■ 芸術鑑賞提供事業(国提供事業)の様子

文化芸術による子供の育成事業（巡回公演事業）



オペレッタの鑑賞の体験
(糸満市立光洋小学校)



オーケストラ指揮体験
(石垣市立大浜小学校)



オペレッタの鑑賞
(沖縄市立コザ中学校)



雅楽の鑑賞及び体験
(竹富町立波照間小中学校)

文化芸術による子供の育成事業（芸術家の派遣事業）



楽器演奏鑑賞及び体験
(沖縄県立那覇西高等学校)



楽器演奏鑑賞及び体験
(宮古島市立久松小学校)

(×E)